

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】平成25年4月18日 (2013.4.18)

【公開番号】特開2011-216929(P2011-216929A)
【公開日】平成23年10月27日 (2011.10.27)
【年通号数】公開・登録公報2011-043
【出願番号】特願2010-80105(P2010-80105)
【国際特許分類】

H 0 4 N 7/32 (2006.01)

H 0 3 M 7/36 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 7/137 A

H 0 3 M 7/36

【手続補正書】
【提出日】平成25年2月25日 (2013.2.25)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

画像を符号化する画像符号化装置であって、
画面内符号化と画面間符号化を用いて、一連の画像を符号化する際に、画像の一部を強制的に画面内符号化（IntraMB）にするリフレッシュエリアを使用し、
リフレッシュエリア内のIntraMBは、リフレッシュエリア内の画像のみで予測できる予測モードを選択することを特徴とする画像符号化装置。

【請求項 2】
請求項 1 に記載の画像符号化装置であって、リフレッシュエリア内IntraMBにおいて、リフレッシュエリアの左端に位置するMBの量子化値を、リフレッシュエリア内の他のMBの量子化値よりも小さくすることを特徴とする画像符号化装置。

【請求項 3】
画像を符号化する画像符号化装置であって、
画面内符号化と画面間符号化を用いて一連の画像を符号化する際に、
画像の一部を強制的に画面内符号化（IntraMB）するリフレッシュエリアを使用し、画像内のリフレッシュエリアの位置によって、その画像を符号化する際のスライス構造を変えるように制御することを特徴とする画像符号化装置。

【請求項 4】
請求項 3 に記載の画像符号化装置であって、
符号化を行なう際の画像内の各々のスライスは、リフレッシュエリアに属するMBのみで構成、あるいは、リフレッシュエリアに属さないMBのみで構成することを特徴とする画像符号化装置。

【請求項 5】
請求項 3 に記載の画像符号化装置であって、各々のスライスを構成する先頭のMBは、画面の先頭MBを除いて、全てリフレッシュエリア内のMBとすることを特徴とする画像符号化装置。

【請求項 6】
請求項 1 から 5 のいずれかに記載の画像符号化装置であって、リフレッシュエリアの左に

位置するリフレッシュエリア外のMBが、ストリームエラーによる情報を参照した予測を行なった場合でも、リフレッシュエリアにそのエラー情報が混入されない事の特徴とする画像符号化装置。

【請求項 7】

請求項 1 から 6 のいずれかに記載の画像符号化装置であって、リフレッシュエリアと接するリフレッシュエリア外のMBは、画面間符号化と画面内符号化とがランダムに出現することを特徴とする画像符号化装置。

【請求項 8】

請求項 1 から 7 のいずれかに記載の画像符号化装置と、入力画像を取得するカメラ撮像部と、音声を取得圧縮する音声取り込み圧縮部と、音声と映像を多重化する多重化部と、多重化データを伝送する伝送部と、伝送データを受信する受信部と、受信データを分離する分離部と、映像を伸張する伸張部と、音声を伸張する伸張部と、映像を表示する表示部を、音声を出力する音声出力部を有する画像伝送装置。

【請求項 9】

画像を符号化する画像符号化方法であって、画面内符号化と画面間符号化を用いて、一連の画像を符号化する際に、画像の一部を強制的に画面内符号化（IntraMB）にするリフレッシュエリアを使用し、画像内のリフレッシュエリアの位置によって、その画像を符号化の際のスライス構造を変えることを特徴とする画像符号化方法。

【請求項 10】

請求項9に記載の画像符号化方法であり、符号化を行なう際の画像内の各々のスライスは、リフレッシュエリアに属するMBのみで構成、あるいは、リフレッシュエリアに属さないMBのみで構成することを特徴とする画像符号化方法。

【請求項 11】

請求項9に記載の画像符号化方法であり、各々のスライスを構成する先頭のMBは、画面の先頭MBを除いて、全てリフレッシュエリア内のMBとすることを特徴とする画像符号化方法。

【請求項 12】

画像を符号化する画像符号化方法であって、画面内符号化と画面間符号化を用いて、一連の画像を符号化する際に、画像の一部を強制的に画面内符号化（IntraMB）にするリフレッシュエリアを使用し、リフレッシュエリア内のIntraMBは、リフレッシュエリア内の画像のみで予測できる予測モードを選択することを特徴とする画像符号化方法。